ガイドライン2015が公表されました。新しいガイドラインに基づき改正されたのは下の表のとおりです。

<table>
<tr><th colspan="2"></th><th colspan="3">改正前</th><th colspan="3">改正後</th></tr>
<tr><td colspan="2">年齢区分</td><td>成人</td><td>小児</td><td>乳児</td><td>成人</td><td>小児</td><td>乳児</td></tr>
<tr><td colspan="2">通報</td><td colspan="3">反応がないと判断した場合は直ちに大声で助けを求め、119番通報とAEDの搬送を依頼する</td><td colspan="3">反応がないと判断した場合、又は反応があるかどうか迷った場合には、直ちに大声で助けを求め、119番通報とAEDの搬送を依頼する</td></tr>
<tr><td colspan="2">心停止の判断</td><td colspan="3">普段どおりの呼吸が見られない場合は心停止と判断する</td><td colspan="3">普段どおりの呼吸が見られない場合、又はその判断に自信が持てない場合は心停止と判断する。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">胸骨圧迫</td><td>深さ</td><td>少なくとも5cm沈むまで</td><td>胸の厚さの1/3又は体格により5cm沈むまで</td><td>胸の厚さの1/3まで</td><td>約5cm沈むまで</td><td colspan="2">胸の厚さの約1/3沈むまで</td></tr>
<tr><td>テンポ</td><td colspan="3">少なくとも100回/分</td><td colspan="3">100～120回/分</td></tr>
</table>

応急手当の方法は、さまざまな研究や検証を重ね、原則5年に1度、より良い方法へ改正されています。新たな応急手当の方法は、これまでの方法を否定するものではありません。大切なことは、目の前に倒れている人を救うために「自分にできることを行う」ことです。